

## 第253回 社会人の学び直しを支援する大学院での FDのための教材開発

- 教材開発プロジェクトの[あらまし](#)／[3か年計画](#)

目的: 全国展開して、大学(大学院)における「社会人の学び直し」機能を強化する！社会人教育専門家「増」=社会人学生(学び直し)「拡大」！

- 開発教材の[概要](#)

(対象: 主に教員準備段階, 運用形態: 主にオンライン／120h程度)

- 社会人学び直し支援の[方針](#)—学習目標の[対応](#)を軸に開発

- 教材コンテンツ構成(モジュール1～12)([課題分析図](#))

- 方針に対応した[シラバスチェックリスト](#)([試験的運用結果](#))

- [モジュール1](#)に[実力診断の仕掛け](#)

- ポートフォリオの[役割](#): ラーニング&ティーチングPF

- 今後の予定: 次年度、学外試行～改良を実施します。

# プロジェクトのあらまし

平成26年度 特別経費(プロジェクト分【新規事業】) 大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実 採択プロジェクト:

「教授システム学(Instructional Systems)の研究普及拠点の形成  
-学び直しを支援する社会人教育専門家養成[短期プログラム]パッケージの開発と普及-」

## 【概要】

eラーニング専門家養成のための eラーニングによる大学院である教授システム学での教育研究実績に基づいて、社会人が学びやすい環境を整備する専門家を育成するため、履修証明制度 (Certificate)を活用する短期プログラムを開発し、ICT活用により横展開(全国大学院)から縦展開(学部教育への応用)へと繋げて行く。

パッケージの普及 = 医学・薬学・看護・工学分野へ展開

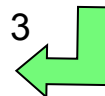
【参照】プロジェクトHP [http://kyotenh26.gsis.kumamoto-u.ac.jp/?page\\_id=2](http://kyotenh26.gsis.kumamoto-u.ac.jp/?page_id=2)

## 3ヶ年計画：各年度の予定

表. プロジェクト3ヶ年計画

2014	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>【調査①】</b> 社会人の学びやすい環境を構築するための専門家に求められる資質についての調査を行う。</li> <li>2. <b>【システム整備】</b> 社会人向け学習支援システムに求められる特性をICT環境の観点から整理し、プロトタイプへの実装を行う。</li> <li>3. <b>【調査②】</b> 履修認定制度や短期プログラムの実践例の調査を実施する。</li> </ol>
2015	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>【教材企画立案】</b> 当該専門性を身に付けるための研修講座をHPIの観点から企画・立案する。</li> <li>2. <b>【教材設計・開発】</b> 研修講座を実施するための社会人向け学習支援システムを設計・開発する。</li> <li>3. <b>【教材試行】</b> 社会人の学びやすい環境を構築するための専門家に求められる資質を身に付けるための研修講座を他の研究ユニットと密に連携して試行し、改善する。</li> </ol>
2016	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>【教材試行】</b> 全国の協力機関において研修講座を展開する。</li> <li>2. <b>【システム設計・開発】</b> 履修認定制度や短期プログラムを実施するためのeポートフォリオを設計・開発する。</li> <li>3. <b>【履修証明プログラム実施準備】</b> 研修担当者の養成・認証制度を試行し、履修認定制度や短期プログラムの形式にまとめる。</li> </ol>

【参照】プロジェクトHP [http://kyotenh26.gsis.kumamoto-u.ac.jp/?page\\_id=2](http://kyotenh26.gsis.kumamoto-u.ac.jp/?page_id=2)



## 開発教材の概要

- 対象：主に教員準備段階（院生）や若手教員
- 内容：社会人学び直しを支援できる授業設計・授業実施ができるようになる。←まずは大学院を対象に
- 運用形態：  
システム→LMS (Moodle) + eポートフォリオ (Mahara)  
学習コンテンツ→主にオンライン学習+実習パートも
- 学習期間：合計120時間  
→履修証明制度を利用して履修証明書発行（予定）



# 社会人学び直し支援の方針

GSISのこれまでの運用実績から導いた「社会人学び直し支援」のための  
4方針・17項目

基本方針①: 学び直しを必要とする社会人が学べる。

基本方針②: 学んだことを業務にすぐ使える。

基本方針③: できるようになるまでが学習である。

基本方針④: 学習者自身が自らの学びをコントロールする。

項目例)

- 社会人は適切なレベルの内容で学びたい。(適切なレベルか予め確認できないのは×)
- 社会人はすぐに使える知識とスキルを学びたい。(基礎から積み上げは×)
- 社会人が学ぶのは学習成果を得ることが目的である。(過程の努力で評価するのは×)
- 社会人は、持っている専門的な知識や経験を活用して学ぶ。(教師が「答えを握っている」のは×)



# 教材の方針－学習目標の対応

表. 方針-学習目標の対応表(抜粋)

方針 (見出し)	方針 (下位)	学習目標	対応モジュール
基本方針 ② (学びの適用) : 学んだことを業務にすぐ使える	②-1 コンピテンシーリストが予め公開されており, 身につけられる職務遂行能力がわかっている	科目の目的について、現実 に役に立つかどうかの文脈 で記述できる	モジュール5 授業ルーティンを計画する
	②-2 すべての課題が, コンピ テンシーと直結している	すべての課題が, コンピテ ンシーと直結させることが できる	モジュール3 科目の位置づけを確認する
	②-3 基礎からの積み上げでは なく, 実践に近い文脈で 最初から応用問題に取り 組ませる	スキルの習得 (練習) を取 り入れられる。	モジュール5 授業ルーティンを計画する
		現実の課題を学習課題で用 いるよう課題設定できる	モジュール5 授業ルーティンを計画する
	②-4 課題解決型の学びになっ ている	課題解決型の学びを設計で きる	モジュール5 授業ルーティンを計画する

対応

対応

# 教材コンテンツの構成ー学習課題分析

各モジュールの教材・テスト設問等は、「方針ー学習目標&下位目標」に対応

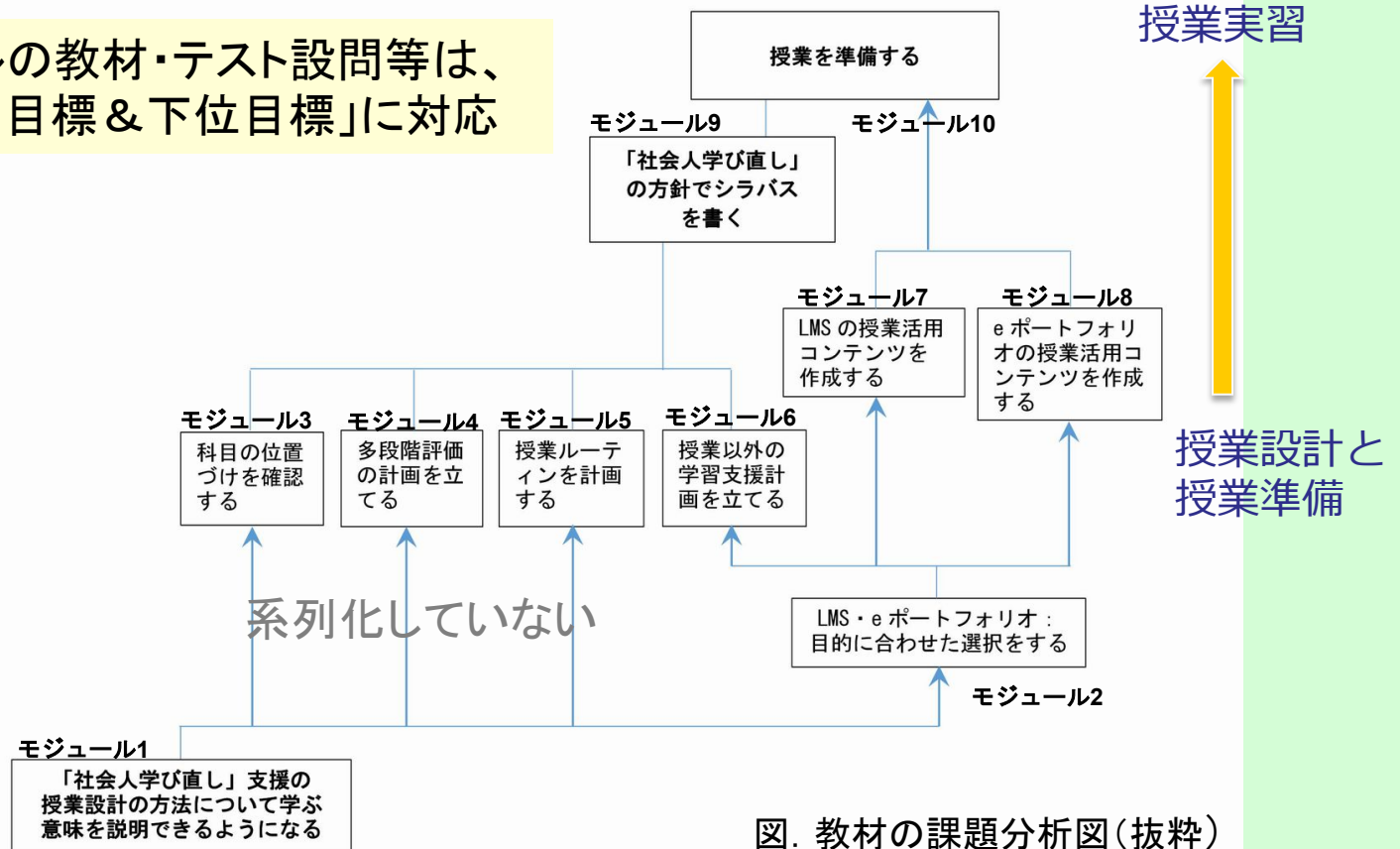


図. 教材の課題分析図(抜粋)

# シラバスチェックリスト

- 学習目標を達成すると「方針」に従ったシラバス(授業設計)の作成ならびにチェック&改善提案ができるようになる。

表. シラバスチェック項目(抜粋)

学習できるようになるまでができるようになるまでが	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 学んだことを実際に使うためのプランニングをさせている</li> <li><input type="checkbox"/> 練習や小テストは何度でも挑戦できる仕組みになっている</li> <li><input type="checkbox"/> 基礎知識を自習する事前学習がある</li> <li><input type="checkbox"/> 全ての小テストに合格することで、全ての学習目標の達成を確認できる内容になっている</li> <li><input type="checkbox"/> 授業計画は、学習目標ごと(複数可)にブロック化して、学習目標を確実に学べるようになっている</li> <li><input type="checkbox"/> ブロックごとに練習問題と確認テストがある</li> <li><input type="checkbox"/> 学習者が学びを振り返る機会を設定している</li> </ul>
学習者自身が学びをコントロールする	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 学習の成果を記録し振り返ることで、他の経験などに関連づける促しを導入している</li> <li><input type="checkbox"/> 課題を達成できていない学習者に対して、支援する方法を用意している</li> <li><input type="checkbox"/> 学習に関係ある内容の工夫で、動機づけを高めている</li> <li><input type="checkbox"/> 学習者が学習の全貌を把握し、進捗についても自己把握をさせる工夫がある</li> <li><input type="checkbox"/> 学習者同士の学び合い、アクションプランの活用、リフレクションの促し、学習リソースの提供、ナレッジマネジメント、LMSの活用といった学習支援を授業外に設定している</li> <li><input type="checkbox"/> 学習者の知識やスキルを相互に活用する工夫がある</li> <li><input type="checkbox"/> 学習者同士のコミュニケーションを推奨し(お互いから学ぶ)、そのための環境を提供している</li> <li><input type="checkbox"/> 学習活動に適用したメディア(ICTを含む)が使用されている</li> <li><input type="checkbox"/> LMSの特性を活かした学習活動がある</li> </ul>



# シラバスチェックリストの試用結果

- 教員研修終了時に試用してみた。(n=24)

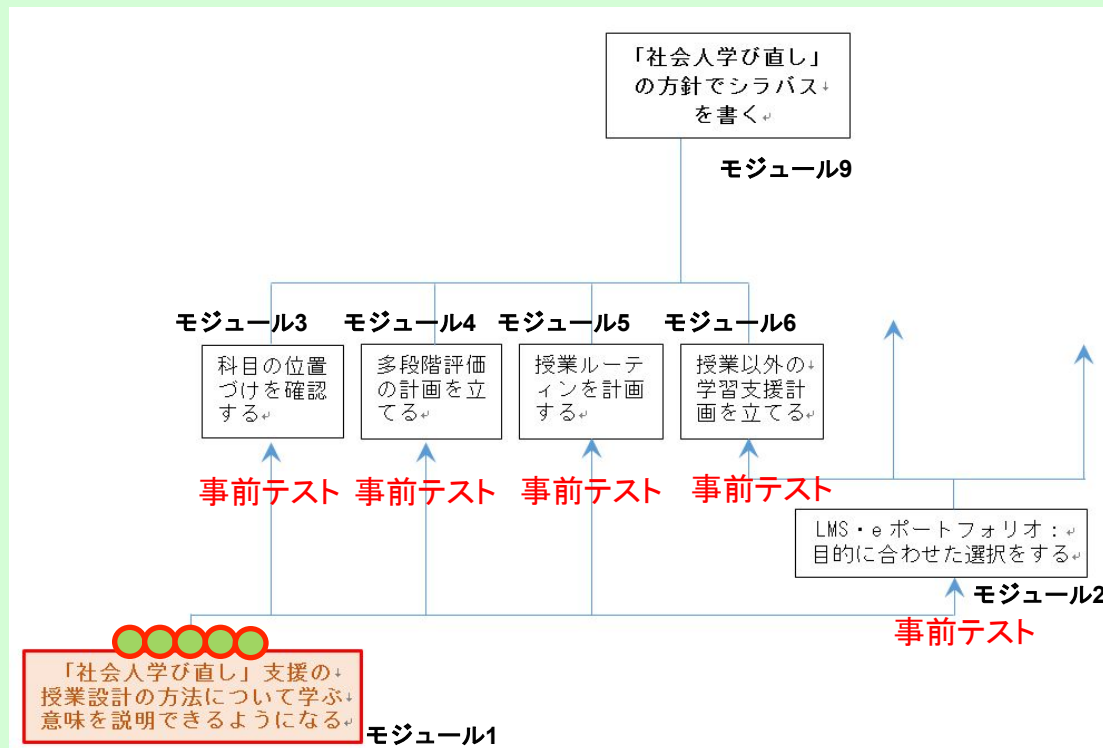
	チェック項目	OK	NG	NA	?
11	現実の課題に取り組むことが対面授業の中心になっている	14	2	3	5
19	eポートフォリオシステムの特徴を活かした学習活動がある	5	7	5	6
25	学習者の知識やスキルを相互に活用する工夫がある	17	3	0	4

	チェック項目	OK	NG	NA	?
3	学習課題の遂行＝学習目標が達成できる内容である	23	0	0	1
8	科目の目的は現実に役に立つスキルの習得である	24	0	0	0
16	授業計画は、学習目標ごと(複数可)にブロック化して、学習目標を確実に学べるようになっている	22	2	0	0

	チェック項目	OK	NG	NA	?
13	練習や小テストは何度でも挑戦できる仕組みになっている	6	14	4	0
15	全ての小テストに合格することで、全ての学習目標の達成を確認できる内容になっている	8	14	1	1
21	課題を達成できていない学習者に対して、支援する方法を用意している	5	15	1	2
24	学習者同士の学び合い、アクションプランの活用、リフレクションの促し、学習リソースの提供、ナレッジマネジメント、LMSの活用といった学習支援を授業外に設定している	5	16	0	2

# モジュール1の構造

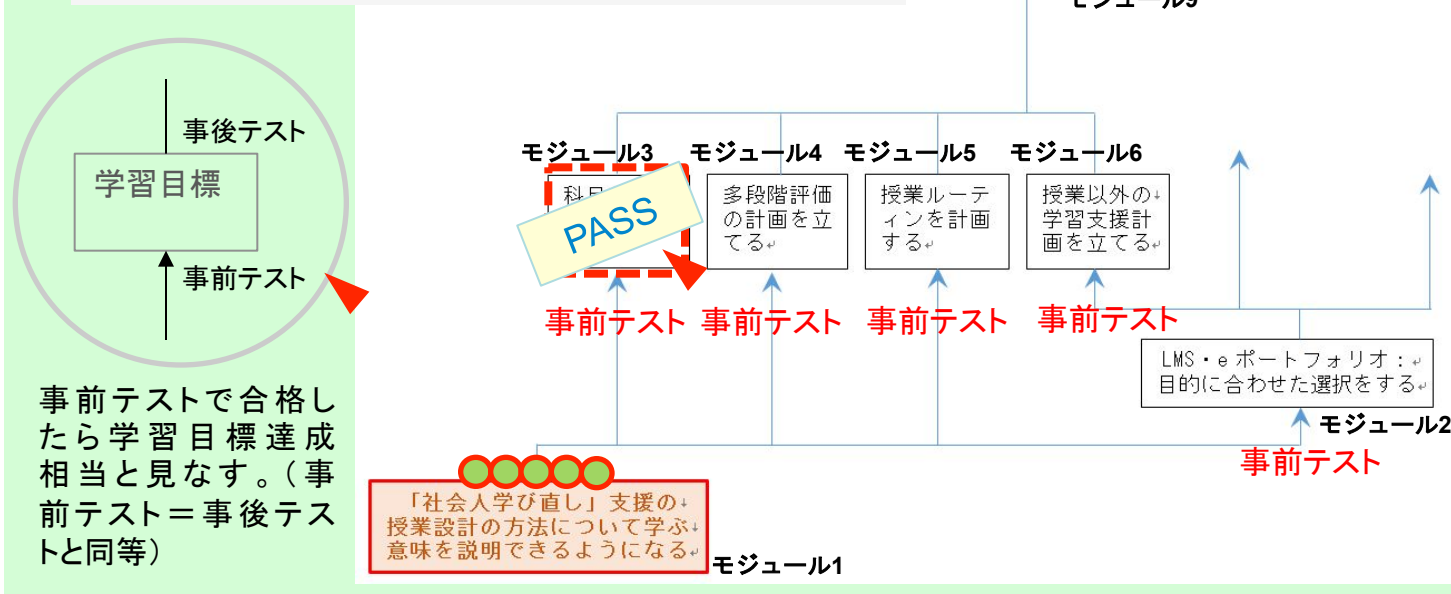
- モジュール1では、モジュール2～6の事前テストを設置  
→シラバス(授業設計)チェックの実力診断に活用



# モジュール1の実力診断の仕掛け

- モジュール1で授業設計の実力診断→学習計画を立てる  
→Relevanceを高める&Volitionの準備作業

診断1: シラバスチェックリストでサンプル科目をチェック(複数)  
診断2: 各モジュールの事前テストを受験



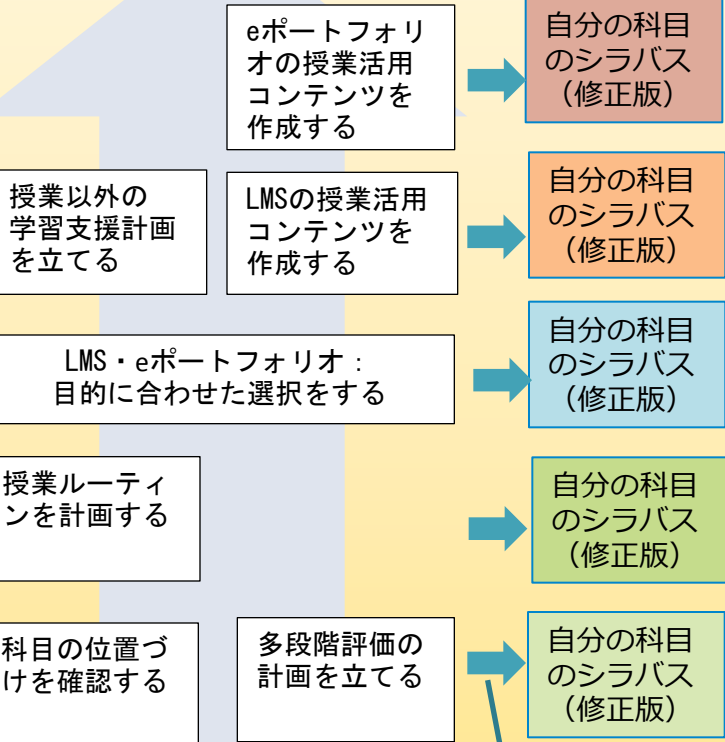
# eポートフォリオの役割

モジュールを  
経るごとに  
シラバス(授業  
設計)のパーツ  
が揃う。  
→差分を毎回  
振り返り

実習パートでは、  
ティーチング・  
ポートフォリオも  
作成(予定)

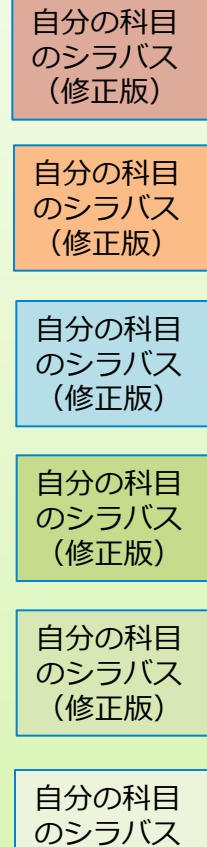
## LMS (Moodle)

「社会人学び直し」の方針で  
シラバスを書く



学習成果を自分の科目のシラバスに反映

## eポートフォリオ (Mahara)



前回のシラバスと比較してど  
が改善されたのか確認する